



2020年1月31日

各 位

会 社 名 株式会社 セキド
代表者名 代表取締役社長 関戸 正実
(コード番号 9878 東証第二部)
問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭
(TEL. 03-6300-6335)

業績予想値の修正に関するお知らせ

2019年4月26日に公表した2020年3月期の業績予想値を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

当期の業績予想値の修正 (2019年3月21日～2020年3月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,000	61	20	8	4.80
今回修正予想(B)	6,700	△165	△190	△202	△117.64
増減額(B-A)	△1,300	△226	△210	△210	
増減率(%)	△16.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	7,516	△107	△147	△186	△112.10

(注) 当社は、2018年9月21日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

修正の理由

第2四半期累計期間において業績予想を下回った473百万円の売上高と61百万円の営業損益を挽回する施策として、最需要期に既存店舗が入店するショッピングセンターでの催事開催の追加実施に加え、自社店舗は既に閉店済みのショッピングセンターでの催事開催も実施し、一定の成果を収めました。また、成長性、収益性の高いシートマスクをはじめとする化粧品卸部門の強化にも取り組んでおります。

しかしながら、消費増税後の売上高の落ち込みが想定以上に長期化し、最需要期であるクリスマス・年末・年始商戦にまで影響が及んだことで、特に高価格帯商品の売上が振るいませんでした。また、EC部門についても、消費増税後の反動が長引いております。

年始商戦終了後は改善が見られるものの、クリスマス商戦、年末・年始商戦での計画未達が響き、催事売上を除く既存店舗等の売上高が通期で計画を1,160百万円程度、EC部門で100百万円強下回る状況であること、利益面では売上高の未達による売上総利益の減少が影響することを踏まえ、通期業績予想を修正するものであります。

以 上

※本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。